

nakcazawa 14:45

『友だち幻想』1回目のプレゼン（川端・西川・増田）に関するスレッドです。皆さん、5/2くらいをメドに（できれば記憶の鮮明な今日中に）、コメントを付けてください。

新谷

3人で話す分量の振り分けが考えられていてよかった。グループワークを適度に入れる事でダレることがなかった。黒板に説明する言葉を書く事で理解しやすくしていて、参考になった。

西川茉里

久しぶりのプレゼンで初回よりも喋る量が増えたので、自分の言いたいことを簡潔に述べるのがとても難しかった。

みんなの理解度を考慮しながら話して行けるようにこれからも練習していきたい。

グループワークではみんなのおかげで盛り上がっていたので良かった。

高本恭吾

今回のプレゼンでは今学期初回であったが、すごく良いプレゼンであったと感じました。個人的には、自分を三系統に分類する質問などで、自分の対人関係を客観的に見つめ直すきっかけになった。このプレゼン全体を通して、友人関係だけではなく他人との接し方も考えさせられる大変良い機会になりました。

川端 真由

予定よりも少し時間を使ってしまい、時間配分の難しさを改めて感じた。

発表時の雰囲気や状況に合わせて文章の表現や内容をもう少し変化させられるようになりたいと思った。

中井 美裕

質問がわかりやすくなにを伝えたいのかがまとめられていてよかった。

三木美裕理

質問の内容が分かりやすかったため

グループワークがしやすかった。

3人のトーク内容が違ったため

話の展開が分かれているのが理解できた。

崎山綾香

適度にグループワークがあって最後まで楽しくプレゼンに参加できた。難しい言葉もわかりやすく説明してくれたので理解しやすかった。

つちやよしき

本の内容がうまくまとめられていてよかった。

グループワークの質問がわかりやすかった。

何をすればいいかわからない時間がなかったのがよかった。

清水陸人

すごくまとまっていてわかりやすかった。

グループワークが楽しかったので、あっという間の90分でした。

棗田進太郎

最後までグループワークの意図が明確であったので

90分が濃い内容だった

増田光樹

用意してた以上に話す時間が多くなって質問も削ってしまった。時間配分と準備がいかに大切か知りました。

次は話の抑揚や黒板での伝え方をもっと工夫して聞き手が聞きやすい状態を作りたいと思います。

金山恵大

友達についてよく考えさせられる内容で、質問もわかりやすく、グループワークがしやすかった。

白澤卓也

能動的に参加できるような発表で、やっていて楽しかったし、たくさん考えることができた

尾崎星太

グループワークのお題が分かりやすく、楽しく参加できた。

nakcazawa

今回と次回のテキスト『友だち幻想』は、中高生向けの新書（プリマー新書）として書かれたものですが、ドイツの著名な哲学者・社会学者ゲオルク・ジンメルの理論を踏まえた本格的な議論が展開されており、きちんと理解しようとすれば、大学生でもかなり骨が折れると思います。そのような内容でありながらも、本書は各方面で絶賛され、ベストセラーを記録しました。

[https://www.chikumashobo.co.jp/special/friend\\_illusion/](https://www.chikumashobo.co.jp/special/friend_illusion/)

今回のゼミの最後のほうで、西川さんが「今日のゼミでは全体の本文くらいしか扱えませんでした」と言っていましたが、それは書かれている内容ときちんと向き合った証拠です。書かれている内容を一つ一つフロアのメンバーと確認しながら進んでいくやり方には、たいへん好感が持てました。1冊のテーマ（テキスト）で2回のゼミというのが恒例ですが、誤読にもとづいて議論をしても得るところは少ないので、特に1回目は今回のようにテキストの内容をしっかりと理解していくことを最優先するのが賢明だと思います。最後、時間が足りなくなり急ぎ足になりましたが、それはタイムテーブルを事前に作るようにしておけば、次回から避けられます。だいたい80分くらいで完結するように、20分、40分、60分でここまで進む、という目安を決めておくのです。最後のグループワークのお題をやや重たい目のものにして、10分くらいの時間を想定しておき、その日の進行状況次第でそれを伸ばしたり縮めたりすることで調整すればよいのです。次回から参考にしてください。

あと、自分がいちばん言いたいことをあえて言わずに、フロアのメンバーに言わせる、という手法を使ってみるのもよいかと思います。例えば、テキストにまとめっぽい文章がある場合は、「・・・くん、テキストの■ページの△行目から、声に出して読んでもらえますか」というふうにするのです。そうすれば、プレゼンターとフロアとのコミュニケーションの量が増えますし、進行上の区切りになって、フロアのメンバーにとってより印象に残りやすいように思います。

昨年末に『大人のいじめ』という本が出て、話題になっています。『友だち幻想』は学校での友だち関係がテーマですが、社会人になってからの職場での人間関係に対してもこの本に書かれている内容はほとんどそのまま当てはまるように、僕自身は感じています。銀行・信金など金融機関に勤めている卒業生の話では、支店（長）が違うとほぼ違う会社と言ってよいくらいだそうです。残念ながら今の日本の労働システムでは、勤務先・上司を自由に選ぶことはできず、理屈抜きに気に障る上司にあたってしまうこともあります。そういった場合に、むやみやたらに絶望することなく、ストレスを最小化するためのスキル（頭の動かし方）を本書は教えてくれます。特に「気に入らない人と併存する作法」（90 ページ〜）なんて、ほぼそのまま僕自身が実行しています。本書をしっかりと読んで理解することの実生活における効果は絶大ですよ。